

丹波高原に生まれ 人の交流・連携で築く ぬくもりと躍動のあるまち

広報 京丹波



KYOTAMBA TOWN

[特集] 町政懇談会

親子でソーセージ作り。
卒園前に楽しいひととき

上豊田保育所の年長児と保護者21人が2月24日、丹波・食彩の工房でソーセージ作りを体験しました。もうすぐピカピカの1年生。園児たちは卒園前にお父さん、お母さんと楽しいひとときを過ごしていました。

CONTENTS

特集・町政懇談会	2~5
京丹波町合併記念式典	6・7
消防团组织などのあり方を答申	8・9
シリーズ・地域の躍動③	10・11
暮らしのガイド・4月からこうなります②	12・13
フラッシュ TOWN NEWS 2006/わくわくBOX	14・15
まちの元気人③	16



町政懇談会

新しい町営バス路線や、 今後のまちづくりを話し合う

合併後初となる「平成十七年度町政懇談会」を二月七日から二十八日まで、町内十一カ所を会場として開催し、延べ約五百八十人の町民が参加。平成十八年度の施政方針や、新年度から再編する町営バス路線案について説明したあと、参加者と意見を交わし、今後のまちづくりを話し合いました。今回の特集は、懇談会のなかで参加者から出た意見や質問、それに対する回答(いずれも要旨)などをまとめとして報告します。



町からの説明に耳を傾ける参加者(和知ふれあいセンター)

新路線の概要

町営バス新路線案では、旧瑞穂町・旧和知町の路線を、ほぼ現行のとおり残り、丹波・瑞穂・和知を結ぶ路線として、丹波・山線(町中央公民館―丹波マーケス―瑞穂病院―JRバス山崎駅間)と、丹波和知線(町中央公民館―丹波マーケス―JR和知駅間)の二路線(いずれも仮称)を新設します。

合併後に設置した須知高校線(JR和知駅―須知高校)は廃止し、丹波和知線が同校を経由する予定です。

旧丹波町が行っていた町民バスは、町営バス方式に再編し、有償運送に変更。スクールバスの空き時間を利用し、週一回の運行だった路線を、竹野線(町中央公民館―丹波・口八田)・高原・下山線(同公民館―丹波・下山)として運行する予定です。

質問・意見

○高齢化が進むなか、乗車対象をどこに

型バスを使用している。小型バスの運行や便数は今後、検討していく。車両の更新は、議会などと相談して考えていく。運行時間帯は、学校の登下校を中心に考えている。

●和知地区では大勢の児童・生徒がバスを利用するため、大型バスでないと対応できない。塩谷については、道が狭く、現状では大型バスの乗り入れが困難なことから、週一回の小型バス運行となっている。この先、考えていかなければならないが、早急な乗り入れは難しい。

●瑞穂病院へは、和知地区からだ、町中央公民館、丹波マーケスで乗り換えが必要。町健康管理センターへは、丹波マーケスからとなる。

●JRの便と駅とバス路線をつなぐことで利便性を図ることは大切なことである。今後検討していきたい。

●下山駅からの須知高校利用については今後検討していきたい。和知駅―須知高校線は南丹市美山町や綾部市からの利用もある。

●(車両への広告掲載)参考にさせていた

●(山崎駅―須知高路線の提言は)道路運送法やJRとの競合などの問題解決が必要。現状のJRバスも山崎―須知高路線を削減した。こうした現状も理解していただきたい。

●バス停での乗降で多少の誤差が生じる。今後の調整で検討する。

●旧三和町から戸津川への乗り入れは、利用者が少ないことから削減される方向。瑞穂地区から旧三和町へ行く方法

据えるのか。隅々までの運行が理想だと思っどうか。運行計画の変更などは弾力的に考えられるのか。

○利用者が少ない路線は小型バスを増便し、通学バスは大型で運行するなど経済的な運行を。タクシールバス、低床バスなども検討してはどうか。

○和知地区の塩谷へのバス乗り入れはどうか。

○乗り継ぎをスムーズに。例えば、瑞穂病院へ行くことすると、その乗り継ぎはどうなるのか。健康管理センターなども行けるように。

○JRの各駅を基本路線にすることも大切ではないか。

○下山から須知高への路線を重視するところが同校の活性化にもつながる。美山、京北方面から同校へ通う生徒の利便性も考えるべきじゃ。

○車両に広告を掲載してはどうか。バスの燃料代くらいにはなるのでは。

は、路線延長を含めて今後検討する。

●現時点で路線廃止の対象は、瑞穂地区の中台線、グリーンランドへ向かう便。利用者が少ないのが現状だ。必要なくきは、臨時便で対応する。

●(瑞穂病院玄関への乗り入れ)新路線で検討している。

便数・料金は?

運行本数や料金は、現在、検討中ですが、懇談会で出された意見などを踏まえ、利便性のある便数・料金を設定していきます。

質問・意見

○バス料金の考え方は、一〇〇―二〇〇円の低料金での運行も考えてはどうか。それぞれの運行便数は何回くらいあるのか。和知、瑞穂などへ乗り継ぐ場合の料金はどのようになるのか。料金の地域格差の解消を。

○和知地区の「寿券」による高齢者の半額制度はどうなるのか。

町

●料金・便数は現在、検討している段階。初乗り運賃は一三〇円。まずはこの形を基本に計画させていただきたい。町民の皆さんに利用していただける料金設定を行う。現在、瑞穂、和知地区では、各路線で一日、四―五往復している。それくらいの便数の配備を考えている。

●利用促進を図るため、従来の料金体系をベースに、どれだけ安くできるかを検討している。「寿券」による高齢者の半額制度よりも、料金全体を安くできないかを現在検討中であるが現時点では未決定。もう少し猶予をいただきたい。

町政懇談会参加者数(人)

会場	参加者数	会場	参加者数
竹野基幹集落センター	41	三ノ宮基幹集落センター	47
町中央公民館	72	質美小学校	46
町中央公民館	39	市場ふれあいプラザ	61
下山集会所	51	細谷共同集会所	45
山村開発センターみずほ	61	和知ふれあいセンター	77
梅田振興センター	45	合計	585

○JRバス松山駅から須知高への町営バス乗り入れも考えてほしい。

○瑞穂地区の質美線で瑞穂中へ通学する場合、始業時間直前に到着すると聞いているがどうなのか。

○旧三和町から瑞穂地区の戸津川へ二便運行されている。猪鼻・戸津川線を旧三和町の大原まで路線延長することで、綾部方面への交通網整備につながるのではないか。

○利用者の少ない路線の廃止は、さらに利用者の減少につながるのでは。

○瑞穂病院利用者のために、病院玄関への乗り入れを考えてほしい。

町

●多くの方にバスを利用していただくことを主眼に考えている。民間バスがなくなったら、最低限の交通手段の確保はしたい。皆さんの思いがすべてかなう路線構築は難しいが、最大限の努力をしたい。

●一番利用が多いのは朝の通学路線であり、一度に多くの生徒を乗せられる大

新しい町営バス路線や、今後のまちづくりを話し合う

情報手段の一元化は？

情報手段のCATV(ケーブルテレビ)の一元化やケーブルテレビのような質問・意見がありました。

質問・意見

○CATVへの情報の一元化については、住民の負担は、事業は三年くらいのおうちに進めてほしいがどうか。
○CATVへのファックスの取り込みを進めてほしい。

町

○CATVでの一元化を早期に検討する考え。多くの財源が必要となるが、有る起債も活用し、スムーズに進めて



今後のまちづくり方針を説明する松原町長(町中央公民館)

業の継続を。

町

○豊かなふるさととして子や孫に引き継ぐ森林、地球温暖化など環境問題にもつながっている森林を守るの大切な課題だ。山を守る方向性、国や府の動向もある。皆さんの智慧をいただきながら検討していきたい。

●調整できしだい、関係団体を通じて報告する。マツタケ振興については、森林組合などと相談しながら進めていく。
●今後、農地をどう守っていくか、農業をどうつなげていくのか、地域農場づくりの協議会など地域でしっかりと話し合っていくことが大切だと考える。鹿による被害が増えている。今後は地域の話し合いのなかで効果的に駆除していくかなければならない。
●財源の許す範囲で、できる限りのことをしていく考えた。

道路・上下水道など

道路や上下水道、除雪などについての質問・意見もありました。

質問・意見

○町道拡幅改良事業に差があるのではないかと。平等な行政を望む。
○未給水団地の加入については、団地内の70%以上の一斉加入が必要と聞いているが緩和する考えは。
○集落に対する除雪の補助金は、掘削した温泉の早期の活用を期待する。
○明後小前の歩道橋のいきさつは。

町

●総延長三百八十キロメートルの町道が

いきたい。個人負担はできるだけ抑える方向を進めたい。

●CATVの付加機能としてファックスを取り込みたい。

地域自治体連携

住民自治組織の構築など地域自治に対する質問・意見がありました。

質問・意見

○住民自治組織の早期の構築を望む。住民自治組織は、どういった形で構築するのか。行政区単位では細かすぎる。年代で、考え方も暮らし方も異なる。検討が必要だと思うが。

町

●二月に先進地(広島県安芸高田市)を視察した。平成十八年度は内部で研究し、検討委員会を立ち上げて住民の皆さんと共に考えていきたい。既存の振興会組織の取り組みもあるなかで、意見を聞きながら組織のあり方をまとめる考え。またまとった時点で住民説明会などを行い、十九年度にはスタートできるよう地域自治に対する気運も高めていきたい。

子育て・教育など

保育所や学校、社会教育などについての質問・意見がありました。

質問・意見

○わちエンジルの完全給食の存続、延長保育時間の現状維持を、学童保育の対象年齢(小学三年まで)の拡大はどうか。
○質美保育所の統合は、短い期間にどのような話をして打ち出したのか。学校

あり、格差が出ているものを互いにどう納得できるかが課題となっている。それを皆さんと話し合い、理解し合うことから始めていきたい。
●現在、団地内区画数の50%以上の一斉加入としており、さらに団地内を細分化した区画数での考え方をしている。団地内道路が民有地であるなど課題はあるが、給水条件が整いしだい、順次進めていく。

●たいへんな除雪作業をお世話になった。燃料代程度だが配分させていただく。温泉は、畑川ダム周辺整備の柱として位置づけ進めてきた。ダム用地の七割が買収済み。町道の付替工事も進んでいるが、ダム本体の工事が遅れている。議会とも十分相談しながら進めていきたい。
●歩道橋の老朽化と併せ、学校前の道路も車線増で広くなることなどから、歩道橋が設置された。全体的な計画を踏まえ施工されたもの。

福祉・医療など

福祉・医療などについての質問・意見がありました。

質問・意見

○障害者医療費助成制度は、旧瑞穂町の制度から後退した。
○瑞穂病院で薬の出る時間が遅い。
○ねこが増えて困っている。放し飼いで飼っている人もいる。ペットに関する条例をつくれぬか。

町

●介護保険法の改正、障害者自立支援法



懇談会では、子育てや教育に関する意見も多くあった(写真は瑞穂地区の松山保育所)

についても、存続させて地域活性化を考えていく方向も必要ではないか。

○子どもの安全確保対策はどうか。
○中学校の学校給食一元化を。
○バス通学費の地域格差の統一を。三口以内は徒歩通学だが、安全面からバス通学にできないか。
○中央公民館施設の近代化の考えは。使用料の改善を。

町

●統一した保育料に完全給食の主食は含まれておらず、丹波瑞穂の保育所には完全給食の設備がないことなどから、国の基準に基づき副食給食となった。延長保育時間は合併協議で決定した。状況を見極めながら、将来的には、また考えていく。学童保育の対象年齢拡大は、場所や指導員の問題もあるが、保護者の思いも聞きながら、検討していく。
●質美保育所の統合は、旧町から引き継いだ。もう少し話し合いの場が必要ではないかという思いは受けとめる。一方的に進めようとは思っていない。学校の統合についても、方法を考えながら、皆さんと共に進めていきたい。

の制定に基づき、その支援を検討する。

●自動受付機の導入など時間短縮に努めている。皆さんのご意見をいただき、よりよい病院運営に努める。
●旧瑞穂町に条例があったが、動物愛護の面で捕獲などに不都合が生じた。動物愛護との整合性も考え、検討する。

広報・広聴について

今後も町政懇談会の開催を望む声などがありました。

質問・意見

○こうした懇談会を年二回は開いてほしい。集落ごとに開催するのが良いのでは。集落ごとに開催するのが良いのでは。場の雰囲気も堅い。和やかに懇談できる場を設けてほしい。
○合併後に決定されたものは、より早く情報伝達を。
○議会定例会をケーブルテレビで放送しないのか。

町

●年二回開く方向で努力するが、最低でも年一回は開いていく。懇談会のあり方やテーマなどを提言いただき、堅苦しくもない、話し合いの場になるよう努める。開催単位についても検討していく。
●町の方針が定まるとき、定まったときには、考え方を聞かせてもらおう機会を設けていきたい。情報伝達は、ホームページも活用したい。
●十一月議会については公平で公正な情報提供の点から放映しなかったが、三月議会には放映する見通し。丹波・和知地区については、本庁・支所のモニターで放映し、希望者にはリビングサービス

●子どもの安全対策は、各学校で、できる限りの対応をしている。地域でも積極的な活動をいただき、感謝している。今後も教育委員会を中心に安全な環境づくりを努めていく。

●食育の時代といわれ、その重要性は認識しているが、現状の給食センターの処理能力では難しい。現在、条件整備を検討しているので、理解してほしい。

●遠距離通学補助は、小学校は五力年、中学校は二力年をめぐり段階的に統一していく。遠距離通学の国の基準は四キロ以上だが、子どもの安全確保は重要。集団下校をしている学校もある。学校と調整していく。
●全町的に町民の皆さんの思いが公民館建設に一致したとき実施するのが良いと考える。また、維持管理費の見極め、使用頻度、設置後のあり方を総括しながら進めるものと考ええる。使用料の改善は検討する。

農業について

集落営農や有害鳥獣対策、林業振興などへの質問や意見がありました。

質問・意見

○森林を守る林業振興への考え方は。
○合併協定項目で、農林業関係は新町で調整する項目が多いがどうなっているのか。マツタケ振興などソフト事業は廃止項目が多いが、関係団体との協議は。
○集落営農の見通しは。有害鳥獣対策への考えは。
○水路などの農業関連施設が老朽化して、改修が必要。従前からの農林業振興事

を行う予定だ。

その他、行政運営など

そのほか、行政運営など、さまざまな質問・意見がありました。

質問・意見

○瑞穂地区の旧病院跡地、保育所予定地の活用は。病院跡地を文教ゾーンにしてはどうか。三ノ宮地区の倉庫など町の施設は、今まで通り利用できるのか。
○助役収入役の数がアンバランスではないか。
○堆肥センターに関する問題が議会で取り上げられたが、公平、公正な行政が展開されていないと思う。
○瑞穂地区では投票所が少なくなるのか。
●(病院跡地、保育所予定地)現時点での活用は未定。今後、十分研究しながら検討する。三ノ宮地区の倉庫は、地域活性化に活用してほしい。
●助役二人制は、旧三町の基本路線を引き継ぎ発展させるため、きめ細かなことを熟知している人を助役とすることが必要であり、議会にお願いした。収入役は町参事が代理をしている。このことは固定化したものではなく、時代の流れを見極めながら進めていきたい。
●ルールを逸脱した面があったと認識している。反省すべきは反省し、組織体制を整えていく。議会などにも、うやむやにせず報告する。
●選挙が公平・公正に執行できるように、投票所へのバス送迎を含め検討していく。

京丹波町合併記念式典

町の発展へ、思いを新たに

「京丹波町合併記念式典」を二月二十五日、蒲生野中学校（蒲生）の体育館で行い、総務大臣代理・幸田雅治総務省消防庁総務課長をはじめ、京都府知事代理・麻生純副知事ら町内外から約三百五十人の来賓が出席。京丹波町の発足を祝うとともに、町の限らない発展をめざし、思いを新たにしました。

ました。

最初に、京丹波町の合併までの軌跡や、町の魅力、将来像などを紹介するビデオ「合併までの歩み」を上映し、式典を開会。国歌斉唱のあと、松原茂樹町長が式辞を述べました。

式辞で町長は、合併に力を注いできた多くの方々への敬意と感謝の気持ちを述べるとともに、「人をまちづくりの中心に位置づけ、人びとがまちづくりについて自らが考え、住民の皆様が強い絆のもとに交流、連携することにより、時代の変化に柔軟に対応できる地方自治を推進していく。また、三町が築いてきた輝かしい歴史と先人の足跡に学び、自立自治に向かってたくましく羽ばたく京丹波町を確立していきたい」と決意を表しました。

そのあと、合併功労者表彰を行い、旧三町の町長や議会議長、合併協議会委員の皆さんに、総務大臣表彰や町長感謝状を贈りました。式典の最後には、祝典芸能として、和知地区の伝統芸能で、京都府指定無形文化財に指定されている「小畑万歳」が披露され、掛け合いの太夫（たゆう）と才蔵（さいそう）、三味線（しゃみせん）の三人一組で演じる古典万歳が式典に華を添えました。



祝典芸能として披露された小畑万歳

次に、岡本勇・町議会議長があいさつしたあと、総務大臣代理の幸田雅治・総務省消防庁総務課長、京都府知事代理の麻生純・副知事、中川泰宏・衆議院議員、京都府議会議長代理の上田秀男・府議会議員から祝辞がありました。

合併功労者表彰

（順不同、敬称略）

■市町村合併功労者

総務大臣表彰

横山義雄（旧丹波町長）▼黒田一夫（旧瑞穂町長）▼堀郁太郎（旧和知町長）▼松原茂樹（旧丹波町議会議長）▼山下靖夫（旧瑞穂町議会議長）▼片山博至（旧和知町議会議長）

■町感謝状（合併協議会委員）

寺坂久二男▼岡本勇▼片山丁宣▼吉田忍▼室田隆一郎▼野間和幸▼人見亮▼荒牧敦子▼小田耕治▼荻野鶴夫▼吉田基▼塩尻完▼田畑美さ子▼船越勝▼奥岩雄▼田畑龍子▼稲元源太郎▼澤田太三▼西山芳明▼大田喜好▼山口昌代▼堀吉宏▼梅原好範▼石原政則▼新田一郎▼竹内啓雄▼軽尾恒男▼片山茂雄



総務大臣表彰を受ける横山義雄さん



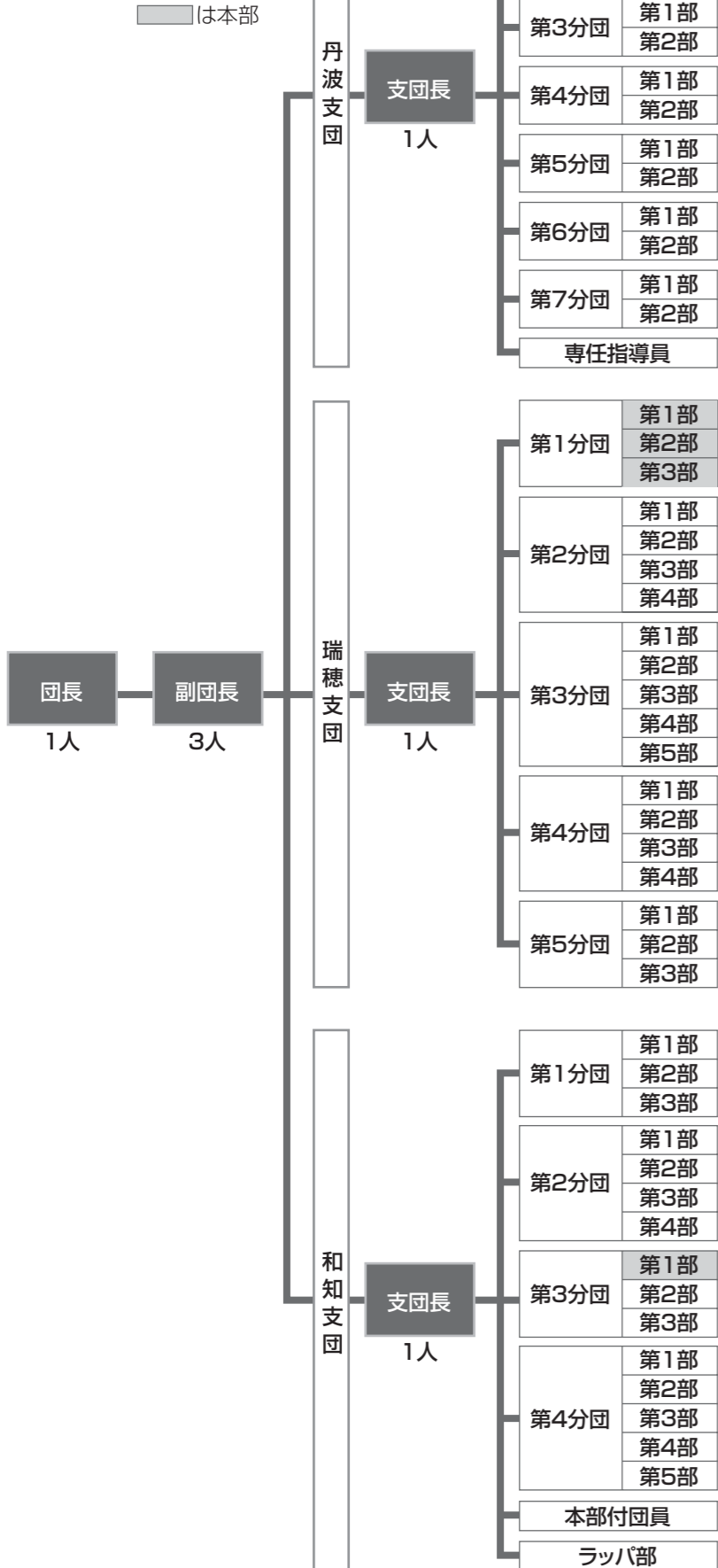
合併協議会委員を代表して松原町長から感謝状を受ける奥岩雄さん

祝 京丹波町合併記念式典



式辞を述べる松原町長（蒲生野中学校体育館）

京丹波町
消防団組織図



消防団の
組織について

三消防団の合併により、組織の規模が大きくなることから、指揮命令が円滑に行える体制を整えるとともに、組織内部の職務と階級を統一する。

現行の各消防団を支団（丹波・瑞穂・和知支団）とし、三消防団の分団（丹波支団Ⅱ七分団、瑞穂支団Ⅱ五分団、和知支団Ⅱ四分団）

消防団の
編成について

は、現行のまま引き継ぐ。

部編成については、丹波・和知町消防団の部を現行のまま引き継ぎ、瑞穂町消防団の班を部に改編し、四十九部（丹波支団Ⅱ十五部、瑞穂支団Ⅱ十九部、和知支団Ⅱ十五部）を設置する。

また、組織については、各消防団の予防・警防指導体制に違いがあるなどの課題があり、今後、解決に向けて努力すること。

消防施設に
ついて

防災センターや各話所は、現行のまま引き継ぎ、管理については町が主体的に行うこととする。

消防車両やポンプについては、現行のまま引き継ぎ、町備品として配備。

これらの消防施設の新設および更新については、二年後をめぐり予定されている消防団の抜本的な

団員の任用、給与
などについて

消防団員の任用については、消防団長は消防団の推薦に基づき、町長が任命。その他の団員は、十八歳以上で、消防団の区域内に居住または勤務する者などのうちか

再編と整合性を図り、計画的に実施する。

再編と整合性を図り、計画的に実施する。

ら町長の承認を得て、団長が任命する。団長およびその他の役員の任期は二年とする。

定年については、豊富な経験を有する壮年層の団員を確保するため、定年制は設けない。

消防団員の給与などについては、消防団内で団員報酬や出動手当、支団および部の運営費に格差が生じないように統一する。

京丹波町消防団組織等審議会

消防団組織などのあり方を答申

議員や消防団員、学識経験者など八人で構成する京丹波町消防団組織等審議会（1月20日発足、友金一郎会長）は、平成18年4月1日に再編する「京丹波町消防団」の組織体制や消防施設の管理運営、団員の報酬などのあり方を審議し、2月21日、新しい京丹波町消防のあるべき姿を松原茂樹町長に答申しました。

答申書の内容は次のとおりです。町は今後、この答申を踏まえて新しい消防団の発足に向け、体制づくりを進めていきます。



松原町長に答申書を手渡す友金会長（左）と吉田副会長（中央）。（町長室）



4人が制作したCD「とき」



和知太鼓ユニット「わちバン」



江本貴明さん



中道雅揮さん



村上左矢加さん

「とき」に込めた 若者の思い

二月十日、和知ふれあいセンター(本庄)で、地域の若者たち約二十人による手づくりのライブ「みんなが『とき』になる日」が開催された。中心となったのは和知地区や同地区出身の四人の若者たち。四人の活動は「一枚のCD制作から始まった。そのCDに『とき』と名付けた若者たちが、これまでの活動に込めた思いに迫る。

ふるさとへの感謝、 新しい町への思いを歌に

「三町の合併に向けて、自分たちにも何かできることはないだろうか。個々で音楽活動をしてきた中道雅揮さん(西河内)、村上左矢加さん(広瀬)、江本貴明さん(下栗野)が、そんな思いを胸に意気投合した。昨年五月のことである。

「自分たちができることといえば音楽。合併を前に、わたしたちを育ててくれたふるさと『和知』への感謝と、合併によって誕生する町を新しいふるさととして大切にしていきたいと思う気持ちで歌にして伝えていこう」と三人が動き始めた。

三人のこうした思いに、彼らが所属する和知太鼓保存会のメンバーのひとり、山口奈緒美さん(長瀬)も賛同し、四人でCDの制作に乗り出した。

「自分たちの生まれ育った地域を思い、動き出そうとしている三人を後押ししたかった」と山口さん。三人が曲作りを行う一方で、CDのケースや歌詞カードに盛り込む写真撮影に町内を駆け回った。

そして昨年の夏、一枚のCDが完成。地域の方言で「仲間・友たち」を意味する『とき』と名付けた。

CD「とき」

CD『とき』には、自分たちが生まれ育った和知の良さや、将来を思う歌など十曲を収録。二十ページの歌詞カードには、和知の風景や、地域の人びとの写真を盛り込んだ。



山口奈緒美さん

切に思うからこそ、これから同じ町になる丹波町や瑞穂町も大切にしたい。三つの力を合わせて、新しい町をいっしょにしよう。そんな思いを込めて、CDを『とき』と名付けた」と、制作当時を振り返る四人。

制作した五百枚のCDが、売り切れまじかになった昨年十一月初旬、その売上金でライブを開くことを決めた。「CDを買ってもらった地域の人びとへの感謝と、京丹波町になった今、和知だけでなく、丹波、瑞穂にも呼びかけ、みんなでつくるライブにしたかった」と中道さん。四人は、ライブの名称を「みんなが『とき』になる日」と決めた。

「とき」になって、 ネットワークを広げたい

二月十一日、和知ふれあいセンターで、ライブ「みんなが『とき』になる日」が開催された。三人の出演のほか、和知小児童らの合唱や、山口さんらと和知太鼓保存会の若手による和太鼓ユニット、吹奏楽団などの演奏があった。丹波、瑞穂地区で音楽活動をする若者も出演にかけた。

会場には子どもからお年寄りまで約百五十人が詰めかけ、拍手をしたり、歌を口ずさんだりして楽しんだ。



井上史朗さん

「町内の同世代のなかには、ほかの分野でも、地域で活動したいと思っている人がいると思う。わたしたちの活動が、そうした人たちにとって、ひとつのきっかけになれば、これまでの活動に意義があったと思」と江本さん。そういう人たちが、世代を超えて色んな人たちと『とき』になって、ネットワークを広げていきたいと最後に話した。

運営には、和知地区の二十代の若者など約二十人があたった。丹波、瑞穂地区の若者数人も応援に駆けつけ、協力した。

「二十人のスタッフは、特定の団体でも、グループでもなく、地元と同世代。CDを作った四人のこれまでの活動に共感し、自分たちにもできることがあればと集まってくれた仲間だ」と、スタッフのリーダーを務めた井上史朗さん(市場)。「開催までは壁もあったが、若者パワーでなんとか乗り越え、開催へこぎつけられた。スタッフの家族や近所の人、地域の人など多くの方々にも支えてもらった」と話す。

「わたしたちの活動を後押ししてくれる同世代が、地域にこんなないてくれるんだと思う」と、うれしかったと山口さん。「活動を通じて、人のあたたかさを感じられた。これまで活動ができたのは、共感してくれた仲間や家族、地域の人たちの支えがあったおかげ」と村上さん。

「とき」に込めた思い

「慣れ親しんだ『和知』の名はなくなるけど、自分たちが本当に大切に思ってきたのは、この地域にある『和知らしさ』。その『和知らしさ』は合併しても、きっと変わらない。そして、それは丹波町や瑞穂町にも『伝える』こと。ふるさとを大

4月からこうなります

2

暮らしのガイド

[在宅高齢者等生活支援]

- 【外出支援サービス】居宅から医療機関などへ送迎
 - 対象 一般の交通機関を利用することが困難な高齢者など(おおむね65歳以上の高齢者、または、おおむね60歳以上の高齢者であって下肢が不自由な方など)
 - 利用料金 5kmまで300円。以降、5kmを超えるごとに100円を加算

- 【軽度生活援助】軽易な日常生活上の援助
 - 対象 おおむね65歳以上の高齢者で、ひとり暮らし世帯、高齢者のみの世帯等
 - 利用料金

30分未満	153円
30分以上1時間未満	306円
1時間以上1時間半未満	444円
1時間半以上(30分増すごとに)	(444円+)166円

- 【生きがいデイサービス】入浴サービス・給食サービスなど
 - 対象 自宅に閉じこもりがちな高齢者など(介護認定者を除く)
 - 利用料金 1,100円/回
- 【ミニデイサービス】レクリエーション、健康チェックなど
 - 対象 おおむね60歳以上の介護認定を受けていない高齢者など
 - 利用料金 1回・100円および実費相当額

- 【食の自立支援サービス】栄養バランスのとれた食事の提供
 - 対象 調理が困難な一人暮らし高齢者など
 - 利用料金 500円/食(副食のみ450円/食)

- 【訪問理美容サービス】訪問による理美容
 - 対象 理美容院に出向くことが困難な高齢者など
 - 利用料金 理美容に要する技術料

[じん臓機能障害者通院交通費支給事業]

- 対象 身体障害者手帳の交付を受けた方であって、じん臓の機能を更生するため、医療機関に通院のうえ、慢性透析法による医療の給付を受けている方。ただし、町の通院送迎サービスを利用していない方に限ります。
- 助成額 月1万円を超える通院交通費を支払った場合に、その通院交通費から1万円を控除した額の2分の1以内。

[重症心身障害者等通院・通所支援]

- 対象 町内に住所を有する在宅の身体障害者で、町長が指定する身体障害者福祉法に基づく更生医療指定医療機関に人工透析療法を受けるため通院する方および重症心身障害児(者)通所施設に通所する方。
- 内容 自宅または町長の指定する場所から医療機関などへの送迎
- 利用料金 町が指定する場所から病院まで…800円 自宅から病院まで…1,000円

[家族介護支援対策助成事業]

- 対象 在宅で生活している介護保険認定者
- 内容 町内で購入した紙おむつ、尿取りパット、使い捨て手袋、清拭剤などの介護用品の一部を助成
- 助成額 月額5,000円以内(ただし、要介護4および5で、住民税非課税世帯は月額75,000円以内)

[在宅ひとり暮らし老人等緊急発信電話設置]

- 対象 町内に住所を有するおおむね65歳以上のひとり暮らしの方、または身体障害者のみの世帯で、心身の状態から安否確認が必要であり、かつ、緊急時の連絡手段として緊急電話の設置が必要と認められる方。
- 内容 ひとり暮らし老人などの急病、災害などによる緊急事態に対する不安を解消し、緊急事態発生時に迅速かつ適切な対応を図るため、緊急発信電話を設置します。

教育

問い合わせ先/教育委員会 ☎82-0988

[幼稚園]

平成18年度からは、京丹波町全域から須知幼稚園に通園できます。

- 保育時間 月額7,000円
- 預かり保育 時間/午後2時～午後6時
対象/4歳児、5歳児
保育料/30分あたり1,500円

[奨学金]

平成18年度から支給額を下表のとおり統一します。

高等学校	年額 12万円以内
高等専門学校	年額 12万円以内(3年間3年生まで)
高等専門学校	年額 18万円以内(2年間4・5年生)
保健師専門学校	年額 18万円以内(1年間)
農業大学校	年額 18万円以内(2年間)
大学	年額 18万円以内(4年間または2年間)

合併協議会で確認された合併協定内容において、「合併の翌年度(平成18年度)から統一する」とされていた各種事業や、法改正などに伴い一部変更される制度などについてお伝えします。

国民健康保険

問い合わせ先/住民課 ☎82-3803

- 賦課方式 平成17年度 丹波地区=国民健康保険税/瑞穂地区・和知地区=国民健康保険料
平成18年度～ 国民健康保険税に統一します。

- 納期 平成18年度から下表のとおり統一します。

第1期	4月1日～4月30日
第2期	5月1日～5月31日
第3期	6月1日～6月30日
第4期	7月1日～7月31日

第5期	8月1日～8月31日
第6期	9月1日～9月30日
第7期	10月1日～10月31日
第8期	11月1日～11月30日

第9期	12月1日～12月31日
第10期	1月1日～1月31日
第11期	2月1日～2月末日
第12期	3月1日～3月31日

納期の末日が土・日・祝日にあたるときは、その次の平日が納期限となります

保健福祉

問い合わせ先/保健福祉課 ☎82-1800

[住民健康診査]

- 健診内容など 平成18年度から下表のとおり統一します。

健診・検診名	対象者	個人負担金(受診料)
基本健診	20歳以上	無料
結核検診	40歳以上	
肺がん検診	40歳以上	
胃がん検診	40歳以上	
大腸がん検診	40歳以上	
前立腺がん検診	55歳以上	

健診・検診名	対象者	個人負担金(受診料)
子宮がん検診	20歳以上	無料
乳がん検診	視触診30歳以上 マンモグラフィ40歳以上	
肝炎ウイルス検診(平成18年度で終了)	40～70歳までの5歳ごと	
成人歯科検診	20歳以上	

[巡回健康相談]

- 回数 住民健康診査の結果返し時を含み、2回
- 会場 集落公民館など93会場

[健康手帳]

- 対象 20歳以上で、健診の受診者と希望者に交付
- 受付場所 本庁・支所、健診の事後指導会場など

[母子保健]

- 内容 平成18年度から下表のとおり統一します。

	教室・訪問	健診	相談	二次相談	発達支援	その他
妊娠中	母親教室(年6回)	妊婦健診(医療機関で実施)				母子手帳交付 不妊治療費交付
出生	新生児訪問(随時)					
乳児期(前期)	離乳食教室(年6回) ベビーマッサージ(年10回)	3～4カ月健診(年6回)	乳児相談(毎月町内3カ所)		乳幼児発達支援事業「遊びの教室」(年12回) 「療育教室」(年12回)	子育てトーク(年5回)
乳児期(後期)		9～10カ月健診(年6回)				
乳幼児期		1歳半健診(年6回) 2歳児歯科健診(年4回) 3歳児健診(年6回)		乳幼児発達支援事業「心理教室」(年12回) 「すくすく相談」(年12回) 「言語相談」(年12回)		
就園						

京都府における注意報・警報の発表区域と注意報・警報基準の変更について

京都府気象台・舞鶴海洋気象台では、平成17年10月11日の京丹波町誕生、平成18年1月1日の南丹市誕生及び三和町、大江町、夜久野町の福知山市への編入合併並びに平成18年3月1日の与謝野町誕生に伴い、平成18年3月1日から防災関係機関及び地域住民の方々の防災活動がより効率的に行えるよう、京都府の注意報・警報の発表区域を下記のとおり変更しました。また、地域細分の変更に伴って注意報・警報の基準についても変更をしました。



▼大雨注意報、洪水注意報 発表基準

細分区域	1時間雨量	3時間雨量	24時間雨量
南丹・京丹波	30ミリ以上 (ただし、総雨量70ミリ以上)	70ミリ以上	110ミリ以上

▼大雨警報、洪水警報 発表基準

細分区域	1時間雨量	3時間雨量	24時間雨量
南丹・京丹波	50ミリ以上 (ただし、総雨量100ミリ以上)	100ミリ以上	170ミリ以上

貴重なお意見をありがとうございます。二月に町政懇談会を開き、参加者の皆さんなどからいただいた多くの意見や提言を踏まえて条例案をまとめ、議会でご審議いただいております。路線案には旧三町を結ぶ二路線の新設も盛り込んでいます。すべての皆さんの思いがかなうバス路線というのは難しいですが、最低限の交通手段は確保していく考えですのでご理解ください。

(梅原克郎・才原)

読者の皆さんが
情報発信するコーナー

地域の伝言板 わくわくBOX

京丹波町になって五カ月が経過し、思うことは、交通手段として旧町単位でバスの運行がされていますが、本庁、須知高校、丹波自然運動公園、各小中学校間の用務、スポーツPTAなどの際の交通手段はマイカー利用というのが現状です。旧三町間の拠点からバス運行を三便往復してもらえれば、町民の皆さんの交流もでき、活性化につながり、お互いの町の良さも心の交流につながると思うのであります。町長様をはじめ役員の方々の皆さんには、頭の痛いことを申し上げますが、ご考慮いただきたく、お願い申し上げます。

送り先
〒622-0292 (住所不要)
京丹波町企画情報課広報京丹波「わくわくBOX」係
ファックス/82-2500
Eメール/kikaku30@town.kyotamba.kyoto.jp

このコーナーは、「身近に起こった出来事」や「感動したこと」、「みんなに教えてあげたい・わたしの健康術」、「こんなサークル活動始めました」、「まちづくりについての意見」、「広報紙への感想」、「イラスト・絵画・写真」、「エッセイ・詩・俳句、川柳」など、読者の皆さんの身近な情報発信としてご利用ください。はがきに住所・氏名・電話番号を記入のうえ、情報をお寄せください。匿名希望やイニシャルの場合は、氏名を記入したうえで、その旨を明記ください。(お寄せいただいた情報は随時、掲載します。)ファックス、Eメールでも情報をお待ちしています。

京都府スポーツ賞を受賞

竹野ホッケースポーツ少年団女子と、瑞穂中女子ホッケー部がこのほど、平成十七年京都府スポーツ賞「未来くん賞」を受賞。二月二十八日、京都テルサ(京都市南区)で行われた表彰式で表彰を受けました。

京都府スポーツ賞は、体育・スポーツの普及・発展、選手育成に長年にわたり貢献した人や、国内外のスポーツ大会で優秀な成績を収めた個人・団体に贈り、その功績をたたえるものです。

竹野ホッケースポーツ少年団女子は、昨秋の西日本小学生・中学生六人制ホッケー選手権大会で、瑞穂中女子ホッケー部は、昨夏の近畿中学校総合体育大会ホッケー競技で、それぞれ優勝の功績を残し、栄えある賞を手に入れました。



瑞穂中女子ホッケー部の皆さん



竹野ホッケースポーツ少年団の皆さん

「食彩の工房」特産品加工グループが全国で栄冠

丹波食彩の工房の特産品加工グループがこのほど、平成十七年度食アメリテイ・コンテスト(主催＝農林水産省などで、優良賞(農林水産省農村振興局長表彰)を受賞しました。

このコンテストは、農山漁村の女性グループが地域の特産物を生かした食文化の保存・開発・普及に取り組む、食を通じて地域づくりに貢献している優秀な活動事例を表彰するもので、今年度は全国から四十一団体が応募。書類審査や現地確認などの事前審査により、同グループを含む九団体が最終審査会に進みました。同グループは、平成十二年、丹波食彩の工房の完成を機に、それまで地元食材で特産品加工を行っていた四つのグループが結集して発足。地元の丹波黒大豆を使った「黒豆きんつば」の開発や、黒豆の栽培などを通じて都市住民と交流する「黒豆学校」など熱心な取り組みが評価された。



表彰式に出席した特産加工グループの皆さん(東京都千代田区イノホール)

れ、栄えある賞を手に入れました。審査では、難しいとされる黒豆でのあん作りが成功し、開発した「黒豆きんつば」が高い評価を得ていました。

人権擁護委員が竹野小で人権教室

一月二十四日、竹野小(北村友子校長、児童数六十八人)で、町内の人権擁護委員が人権教室を開催。いじめをテーマにした手作りのジャンボ紙芝居を披露し、お互いを認め合うことの重要性などを呼びかけました。

この日の教室には、法務省の人権キャラクター「人権KEN まもる君」も登場した。



紙芝居を披露する人権擁護委員(竹野小)

小・中学生らスキーを満喫

町内の小・中学生らを対象にした「京丹波町スキー教室」(町教育委員会主催)を、二月五日と二十六日の両日、兵庫県八千高原スキー場で行いました。

教室には、両日、小・中学生や指導にあたった町内のスキー経験者など計約五百人が参加。初心者、経験者などのグループに分かれ、指導者に滑り方などを教わりながらスキーを満喫しました。最初は一人で立てなかった初心者も、教室が終わるころには思い思いにシユプールを描いていました。



スキーを満喫する参加者(兵庫県八千高原スキー場)

人気人

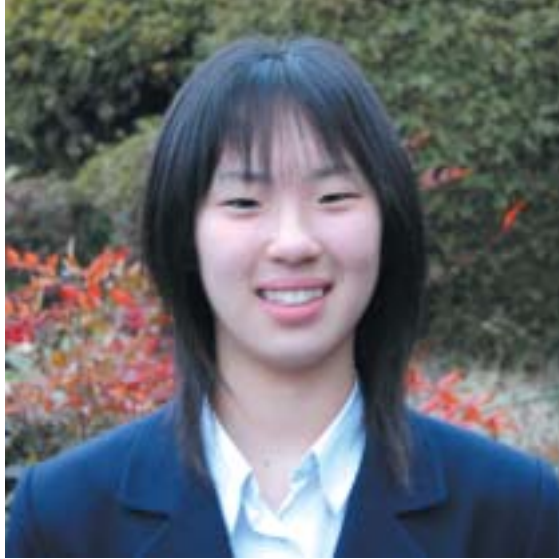
3

目標に向かって、団結することの大切さ学んだ

伴田 久美さん(15歳) 上大久保



後列左から4人目が伴田さん



「ホッケーを通じて、全国にたくさんの方たちでできました」と話すのは、昨年十一月三十日から十二月九日まで、ジュニアユース日本代表(十五歳以下)としてオーストラリア遠征に参加した伴田久美さん(瑞穂中三年)だ。

伴田さんは、瑞穂中女子ホッケー部の主将としてチームをけん引し、昨夏の全日本中学生ホッケー選手権大会では全国八位に。攻守両面で活躍した伴田さんは、十月の選考会で日本代表に選ばれた。京都府から選ばれたのは伴田さんただ一人で、同中からの日本代表入りは初めてのこと。

オーストラリアの首都キャンベラで行われた「インターナショナル・スクールズ・ホッケートーナメント」に出場し、九試合を戦

い、戦績は五勝三敗一分。「ふだんの試合ではお互い敵同士の人たちと、同じチームでも、しかも海外で共に戦えたことがうれしかったです。貴重な体験ができました」と伴田さんは笑顔で話してくれた。

伴田さんがホッケーを始めたのは小学二年のとき。地元の明俊小スポーツ少年団でスティックを握った。中学校に入ってから、とにかく練習の毎日。休日も白球を追い続けてきた。練習がつかなくて、辞めたいと思ったときもあったという伴田さん。「けれど、ホッケーが好きだから、辞めずに続けられたと思います」と話す。

伴田さんは二年生の秋、ホッケー部の主将に。チームメイトと「全国制覇」を目標に掲げ、チームを引っ張った。中学校生活最後となった昨夏の全国大会では、準々決勝で強豪・大谷中に破れ、涙を飲んだものの、三年間で、近畿大会や西日本大会での優勝など栄冠を手にした。

「試合で勝ったときの喜びも、負けたときのくやしさも、共に分かち合えるチームメイトがいてくれたからこそ、キャプテンとしてチームを引っ張っていくことができました」と伴田さん。三年間のホッケーを通じて、「目標に向かって団結することの大切さ」を学んだと話す。

四月からは地元・須知高に進む伴田さん。「高校では、日本一をつかみたい」。桜の咲くころ、十五歳のホッケー少女が新しい舞台上立つ。

編集後記

二月は、合併後初の町政懇談会や町合併記念式典など大きな行事があったりして、ただでさえ日数の少ないひと月が、さらに短く感じました。(編集子の場合、いつものことながら締め切りに追われてひと月が短く感じるのですが…)。今回の特集は、その町政懇談会のなかで出された皆さんのご意見やご提言、それにかかる回答などをまとめていますので、一読いただき、今後のまちづくりに対する考えを深めていただければ幸いです。

▼二月二十五日の町合併記念式典は、町内外から約三百五十人の来賓の皆さんにご出席いただき、厳粛かつ華やかな式典でした。式典の最初に放映したビデオ「合併までの歩み」は、町ホームページに掲載していますので、ぜひ、ご覧ください。

(Y)

わたしたちの町

人口 17,835(-21)
 男 8,473(-16)
 女 9,362(-5)
 世帯数 6,491(+9)

3月1日現在/()は前月比